

「インバウンドビジネスを創出する グローバル・ローカリゼーション」プロジェクト

代表者	村上嘉代子【教授】(工学部 電子工学科)
構成員	長谷川 浩志(機械制御システム学科)／間野 一則(電子情報システム学科)／市川 学(環境システム学科) ／渡邊 大(機械制御システム学科)／岡田 佳子(土木工学科)／中村 真吾(機械機能工学科)

■教育改革研究活動助成(地域志向)活動の成果

【プロジェクトの概要】

本プロジェクトでは地域と連携したPBL型授業において、地域の観光促進のためのサービスシステムを開発した。一つ目は、さいたま市を対象地域としてアグリツーリズムとサイクルツーリズムを掛け合わせ、メタバース要素を取り入れたVR空間でのピクニックとサイクリングの疑似体験による旅マエのプロモーションから実体験へ移行させるシステムと、二つ目は、那須塩原温泉地域の活性化を目的とし、一定層に人気のある温泉むすめのキャラクターのホログラムを活用したまちめぐりツアーを実現させるためのツールとアプリによるシステムである。さいたま市のヨーロッパ野菜を扱う「ヨロ研カフェ」によるピクニック用の新しい商品開発と家族層をターゲットとしシェアサイクルの利用者増を自然体験を通して実現させる提案は、地産地消を推進し、健康で環境に優しい移動手段を推進するSDGsの取り組みとなり、那須塩原温泉のキャラクターを活用してファン層を獲得する仕組みづくりMR(Mixed Reality)技術を用いた提案は、地域の観光産業への理解や課題解決に貢献する技術開発を促進させる取り組みとなった。SDGsは自治体での観光振興にも広がっており、これらのプロジェクトを通してSDGsと観光の理解を深めることにもつながった。

【さいたま市】VR空間でのピクニックとサイクリングの疑似体験による 旅マエプロモーション

■ HELLO CYCLINGとは

自転車を好きなタイミングで、好きな時間に使うことのできるサービス、シェアサイクルの一つであり、15分あたり70円で利用することができる。

■ ヨーロッパ野菜研究会とは

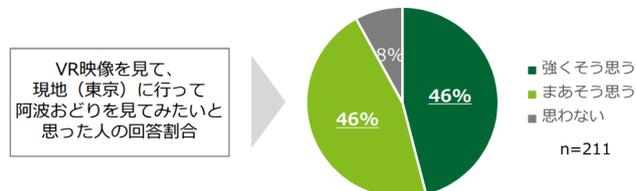
さいたま市にて日本で入手困難なイタリア・フランスの野菜を若手農家が栽培し、地元のレストランに提供することで地産地消を目指す団体。ヨーロッパ野菜を取り扱う「ヨロ研カフェ」の経営を行っている。

■ 背景・現状分析および目的

本プロジェクトでは、ヨーロッパ野菜研究会とHello Cyclingの課題を解決しなくてはならない。ヨーロッパ野菜研究会の課題とシェアサイクリングの両方に共通してあるものは、利用者の認知・興味から欲求・行動への移行である。双方共に認知度を拡大している最中であることから、多くの人に知ってもらうだけでなく、体験してもらうことが利用者獲得の鍵であると考えられる。しかし、ただの試乗会や試食会では話題性に乏しく集客に繋がらないため、昨今注目されているメタバース要素を取り込み、近未来的な技術であるVR空間で疑似体験してもらい、集客を図りたいと考えた。また、それぞれの別の課題である食事の提供方法のあり方や利用機会の提供として、浦和美園地区にある自然を活かしたサイクリングとピクニックといった緑と触れ合う実体験型のプロジェクトを進める。

①：VR疑似体験による旅マエのプロモーション

■ 背景：「旅前」におけるVR集客の有用性



*出所：(株)NTTドコモ「東京高円寺阿波踊りリアル中継」アンケート結果をもとに作成

上図の「旅前」におけるVR有効性の検証アンケートよりVRの映像を見て、現地に行ってみたくて9割の人が、訪日前に見て現地に行ってみたくて回答していることが分かった。以上のことからVR空間でのピクニックとサイクリングの疑似体験による旅マエのプロモーションを可能とするシステム開発を行った。

■ システムプロトタイプ

システムプロトタイプでは、カフェ・ジャルデーノからピクニックを行う公園までのサイクリングをVR空間で疑似体験することが可能となっている。実際に「旅前」に体験することで来客者の増加に繋がる。



主なトピックス

【那須塩原温泉】ホログラスを利用した新しいまちめぐりツアーの提案

■ 背景

塩原温泉は1200年以上の長い歴史を持つ温泉街である。しかし、近年では宿泊者数の減少によりまち全体の活気が失われている。宿泊者数や来訪者を増加させ、まち全体を活性化させる対策が求められている。

■ 現状分析

塩原温泉では、塩原の歴史を活かして来訪者の増加を目的としてまちめぐりツアーを行なっている。しかし、参加者が限定的で来訪者の改善につながらなかった。そこで新たな対策として「温泉むすめ」を利用したイベントを行った。「温泉むすめ」とは、全国の温泉地を盛り上げるべく温泉地をモデルにした想像の2次元キャラクターである。スタンプラリーや痛車イベントを開催し約30人の参加者をしていたためは集客力が高いことがわかる。今回の提案するイベントでも、温泉むすめファンの集客力を利用して新しいイベントを提案する。



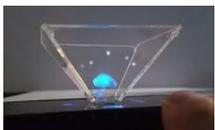
温泉むすめと塩原八弥



痛車イベント

■ 提案するイベント(88Walk)

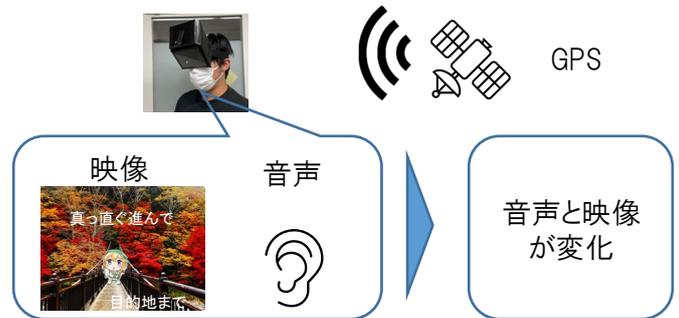
ホログラスを利用した新しいまちめぐりツアーを行う。塩原の特色である、歴史的な名所が狭い範囲に多数存在することを活かしまちめぐりと、最新技術であるホログラスを組み合わせ、2次元のキャラクターと一緒に散策体験できるイベントを提案する。



- 投影機器：アクリル版
- 映像投影機器：スマートフォン

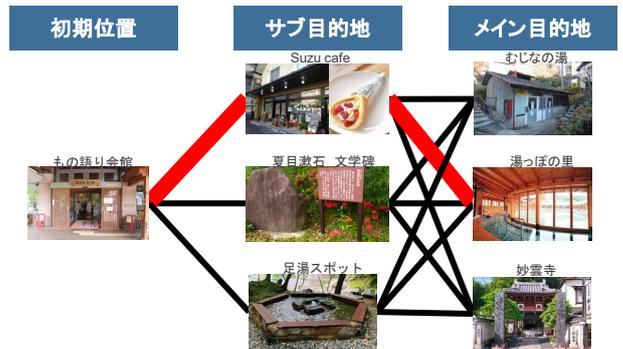
■ システム内容

参加者はホログラスを頭に装着してイベントを体験する。ホログラスにはスマートフォンが搭載されており、スマートフォンはGPSの位置情報により制御され、場所によって音声・映像が変化して温泉むすめファンの要求を満たすことができる。



■ まちめぐりツアーのルート作成について

提案するイベントでは、参加者はランダムに設定されたルートに従ってまちめぐりを行う。こちらでルートを作成することで、参加者の冒険感を演出するとともに運営者が来訪させたい場所に導くことが可能になる。ランダムに作成されたルートにはサブ目的地とメイン目的地に分けられてルートを作成する。サブ目的地には、塩原温泉の店や隠れた名所を設定することで購買行動を促す狙いがある、メインの目的地では温むすポットで紹介された場所を設定し、聖地巡礼の効果を産む。



【那須塩原温泉】安全性と臨場感を考慮したホログラムの開発

■ ホログラスについて

ホログラスとは映像を立体的に空中に浮かぶことが可能な映像技術である。映像を投影する機器と透明なフィルムのみで作成可能であるため安価に利用することが可能である。今回、温泉むすめのキャラクターを立体的に投影させることで温泉むすめファンに新しい体験をさせ、来訪者を増加させる狙いがある。

■ プロトタイプについて

提案するイベントでは、ホログラスを装着してまちめぐりを行うため、ホログラスは出来るだけ安全面を考慮したものが必要になる。今回は視野と両手を開けることができ、万が一の場合に回避が可能である頭に装着する方法を採用した。

